

追りくる危機！手に汗にぎるサスペンス！

あつというまにヒッチコックをとびこえた超鬼オメル・ブルックスのニュー・サスペンス・コメディ！



●製作・監督メル・ブルックス●

メル・ブルックス 新サイコ

MEL BROOKS
in
HIGH ANXIETY



マダリーン・カーン / クロリス・リーチマン / ハービー・コマン
ディック・バン・パッテン / ロン・ケリー / ハワード・モリス

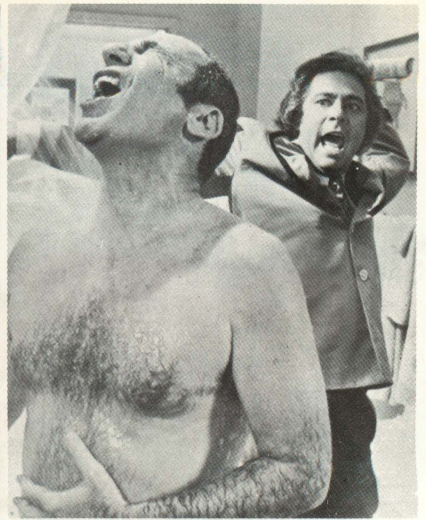
製作・監督メル・ブルックス 脚色メル・ブルックス / ロン・クラーク / ルティ・テルカ / パリー・レヒンスン 原作ロバート・フィッセル(サンリオ刊) 音楽ジョン・モリス (サウンド・エッセイ・レコード)

★スタッフ

製作・監督……………メル・ブルックス
 脚本……………メル・ブルックス
 ………………ロン・クラーク
 ………………ルディ・デルカ
 ………………パリー・レピンソン
 原作……………ロバート・フィルベル
 《サンリオ刊》
 撮影……………ポール・ローマン
 音楽……………ジョン・モリス
 《サントラ盤=アサイラム・レコード》

★キャスト

リチャード・ソーンダイク……………メル・ブルックス
 ビクトリア・プリスペイン……………マダリーン・カーン
 ディーゼル看護婦長……………クロリス・リーチマン
 チャールズ・モンタギュー医師……………ハービー・コマン
 プロフィ……………ロン・ケニー
 リドルマン教授……………ハワード・モリス
 ウェントウオース医師……………ディック・バン・パッテン



★鬼オメル・ブルックスが名匠アルフレッド・ヒッチコックに挑戦した恐くておかしな笑撃の傑作！

「ブレイジングサドル」では西部劇を、「ヤング・フランケンシュタイン」では怪奇映画を、「サイレント・ムービー」では無声映画をネタにして、お腹の皮がよじれるほど笑わせてくれたメル・ブルックスが、こんどはなんとスリラーの名匠ヒッチコックの恐い恐い映画をネタにして、キミをソーツと恐怖に誘いこんで、あげくのはては大笑いという世にも斬新な恐怖とお笑いの最高級の力クテルの味わいを持った新型映画で、またまた全米で大ヒットを放った。

チャップリン、キートンの伝統を受けついでアメリカ映画界の新しい喜劇の王様として、製作、監督、脚本、主演、作詞作曲、そして今回は自作の主題歌「高所恐怖症の歌」をみずから美しいノドを聞かせてムードたっぷりに歌うという一人六役の大活躍を見せるブルックス——その多才ぶりがあらためて話題を呼び、この「新・サイコ」は「タイム誌」が選出するベストテンに、「スター・ウオーズ」「ジュリア」などと並んで堂々入選しており、近年のアメリカ映画の喜劇のなかでも傑出した一篇としてマスコミ界でも絶讃を集めている。

★あの恐ろしいヒッチコックの『殺しの芸術』がどう再現されるか？——ヒッチコックも笑いころげ絶讃した新型映画！

メル・ブルックス演じるリチャード・H・ソーンダイク博士が、「とてもとても重症な精神病療養所」の所長に就任するのがお話のはじまり。病院にやってきたソーンダイクを迎える療養所のあやしげな雰囲気は、グレゴリー・ペック、イングリッド・バーグマン共演の「白い恐怖」を思い出させる設定。ペックが記憶喪失症にかかっていたのに対して、ソーンダイク博士は、高所恐怖症——ここで、ジェームズ・スチュアート主演の「めまい」のパロディが生きてくる。この高所恐怖症が、「新・サイコ」のクライマックスでアツと驚く新趣向で見るものを恐怖とスリルとサスペンス、そして笑いに誘いこむことになる。

療養所のディーゼル看護婦長は、ヒゲまで生やして、「ヤング・フランケンシュタイン」のクロリス・リーチマンが大いに笑わせるが、この人物などは「レベッカ」のジュディス・アンダーソンのやった恐ろしい鬼女を思わせる。

せる。

「めまい」の舞台がサンフランシスコだったように今回もシスコの風光明媚な風景を背景にお話は発展。ヒッチコックも笑いころげた。メル・ブルックス式「殺しの芸術」がいよいよ始まる。

★名作「サイコ」をしのぐ、「鳥」のシヨックがふたたび：恐ろしい殺し！そして「鳥」のシヨックがふたたび：劇中でも最高の見せ場は、ジャネット・リーがモデルのシャワー・ルームで殺された「サイコ」の衝撃的な殺しを再現したシーンで、ソーンダイクがホテルでシャワーを浴びている時、アツと驚く仕掛けてキミを驚嘆させる。さて、その仕掛けはどうなっていますか？……療養所では、ディーゼル婦長を中心に、ソーンダイクを謀殺しようと、あの手この手の知恵がしぼられる。そして、マダリーン・カーン演じる美女がソーンダイクに難事件を持ちかけるのだが、ホテルのロビーでソーンダイクに化けた殺し屋が殺人を犯し、ソーンダイクが容疑者として追われることになる。

このホテルのロビーでの殺しは、「北北西に進路をとれ」の国連ビルで起こった殺人事件のパロディだ。

そして、犯人に間違えられたソーンダイクは北北西に逃げて行くのだが、なんと「鳥」のパロディがここで展開される。あの何万羽のガラスやカモメ、小鳥が人間を襲ってきたシヨック・シーンをブルックスはどうパロディにしたか？……これも見てのお楽しみ。

そして、クライマックスの塔に閉じこめられた高所恐怖症のソーンダイクの運命や、いかがなりますか？——「裏窓」「泥棒成金」などヒッチコックのサスペンスが、このクライマックスでみごとに再現される。

もし、あなたがヒッチコックがお嫌いで、これはゼツタイ、ヒッチコックを離れても最高に笑える恐い喜劇。さあ、日ごろのウサを忘れて、メル・ブルックスの新型映画をたっぶりお楽しみください。

大統領にひきとられたダミアンが一段と恐怖をスクエール・アップして帰ってくる！全米を恐怖のつほに叩きこんで前作をしのぐ大ヒット！

ダミアン／オーメン2 近日大公開

近日爆笑ロードショー

音協10月例会作品 音協特別鑑賞券880円只今発売中

有楽町 日劇前 ニュー東宝 シネマ2 (571) 1947

日・祝11:00 平日12:45 2:50 4:55 7:00